

ボーイング 787 にエレクトロニック・フライト・バッグ(EBF)を導入

~2007年5月導入のボーイング 777 に、日本の航空会社で初搭載~

ANA は、2008 年に世界で初めて導入するボーイング 787 型機にボーイング・エレクトロニック・フライト・バッグ(以下、EFB)を導入いたします。また、当該システムの習熟を図るため、2007 年 5 月から順次導入する 777-300ER 型機に、日本の航空会社で初めて EFB を導入してまいります。

この EFB は、航空機運航時の安全性や効率性の向上を図るために、コックピット内に装備された画面で電子化した運航マニュアルの閲覧や、空港など地上滑走時の自機位置の表示が可能となるフライトデッキコンピューターシステムです。従来、航空機内でパイロットが利用する情報は紙などの媒体に依存する部分が多くなっていますが、身近になった IT 技術を活用してコックピットにおいても情報の電子化が図られることとなります。なお、この EFB は、ボーイング 787 型機では標準装備となり、更なる安全性や効率性の向上が図られます。

ANA は、2004 年に世界のエアラインで初めてボーイング 787 型機を発注した「ザ・ローンチ・カスタマー」として、当社がエアラインとして培った経験やお客様のニーズを新しい航空機に反映させるため、ボーイング 787 型機の開発計画に積極的に参画しております。今後も航空機の運航における安全性はもとより効率性や快適性を追求し、お客様に「あんしん・あったか・あかるく元気」なサービスを提供してまいります。



< EFB 搭載図(イメージ) >



< ボーイング 787 型機(イメージ) >

以上

エレクトロニック・ライト・バッグ(EBB)の機能について



【電子マニュアルなどの閲覧】

航空機に搭載する運航マニュアルや離着陸時に使用する航空路図などの電子データを、画面上閲覧できます。このため、検索・閲覧しやすくなる他、夜間のマニュアルの視認性も向上します。



【エアポートマービングマップ】

地上滑走時に使用する空港面図上に自機位置が表示され、空港での位置がわかりやすくなり、滑走路や誘導路の誤進入の防止に繋がります。



【離着陸性能計算】

気象条件や機体状況に応じた最適の推力や離着陸性能をコンピューターにより計算できるようになります。